

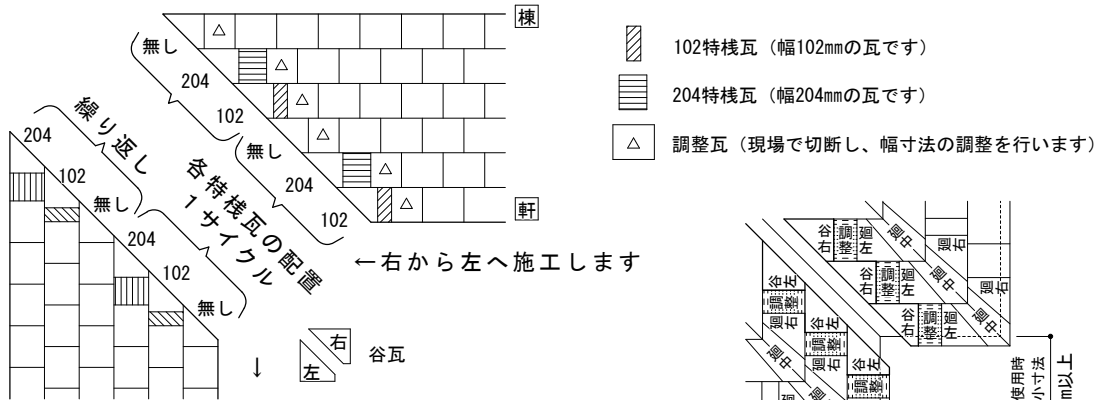
<谷瓦の施工パターン>

谷際の瓦の割付は3段で1サイクルとなり、

4段目以降はそのサイクルの繰り返しとなります。

葺き終わりの2種類の特棧瓦（102、204）の配置パターンは、野地の割付によって変わります。

「無し→102→204」「102→204→無し」「204→無し→102」のいずれかの繰り返しとなります。



※谷瓦を使用する際、隅棟と谷の間は737mm以上確保してください。

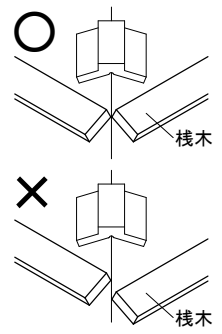
<下地材の取り付け>

棧木ピッチは屋根勾配毎に違います。【表1】

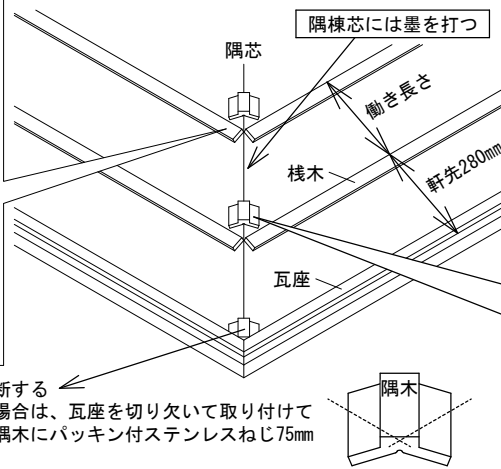
隅棟芯で2面の棧木位置が交わる様に施工してください。【図1】

隅木は取り付け位置を厳守してください。（廻隅中の固定強度に影響するため）【図2】

【図1】



瓦座に干渉する部分を切断する
※三角の瓦座を使用する場合は、瓦座を切り欠いて取り付けてください。（廻隅中は隅木にパッキン付ステンレスねじ75mmで固定します。）



【表1】屋根勾配毎の働き長さ（単位mm）

屋根勾配	4.0寸	4.5寸	5.0寸
働き長さ	275	280	285
軒先	280		

※廻隅瓦・谷瓦使用の場合、4寸、4.5寸、5寸勾配以外の働き長さはスマート施工要領書P.4を参照。

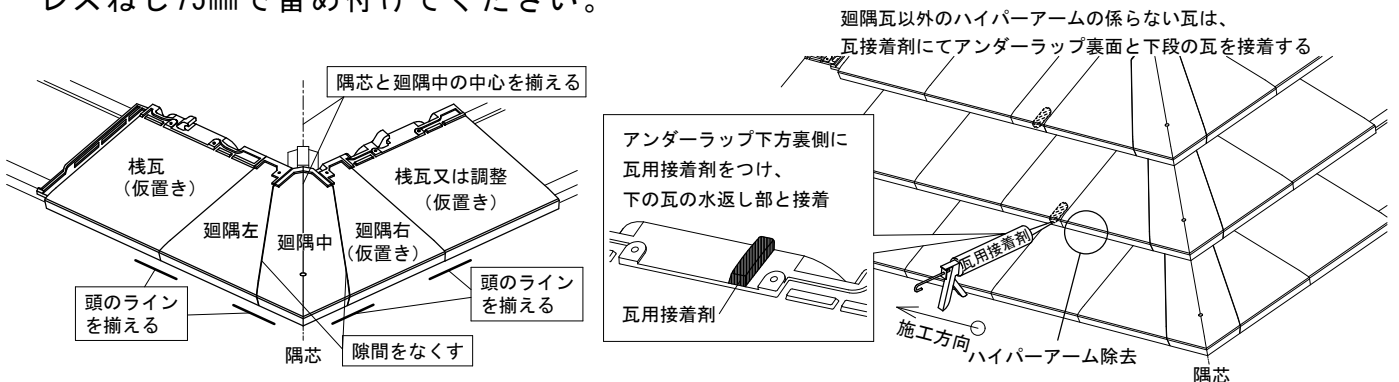
【図2】隅木の固定方法

ステンレスねじφ3.8×38mm
（足部の中心にねじ留める。割れの原因になるため、無理な力がかからないよう注意する。）
隅木
（棧木から15mmの隙間を取り、隅棟芯に合わせる。）

廻隅中のねじの固定強度に影響するため、位置を正確に取り付ける。

<瓦葺き：葺き始め>

廻隅右・左の両隣に棧瓦（又は調整瓦）を仮置きし、廻隅中の中心を隅棟芯に合わせるように施工します。廻隅右・左はハイブリッドリング釘F形用で、廻隅中はパッキン付ステンレスねじ75mmで留め付けてください。



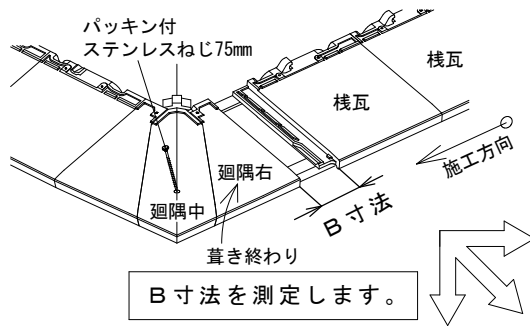
<瓦葺き：葺き仕舞い>

棧瓦を左隅棟際まで施工し、廻隅右と棧瓦の隙間（B寸法）を測定します。

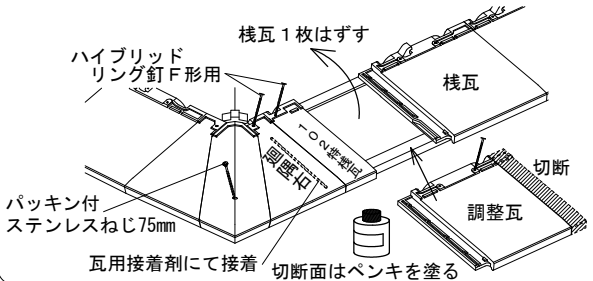
下図のパターンに従って、特棧瓦（102又は204）と調整瓦を配置してください。

※特棧瓦等がハイパーアームに干渉する場合は、ハイパーアームを除去して、瓦用接着剤にて補強してください。

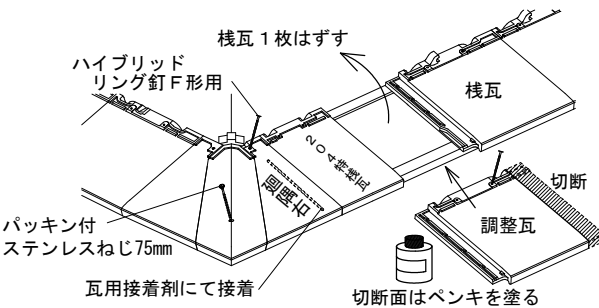
※ハイパーアームが掛からない調整瓦、特棧瓦、棧瓦は、瓦用接着剤で固定してください。



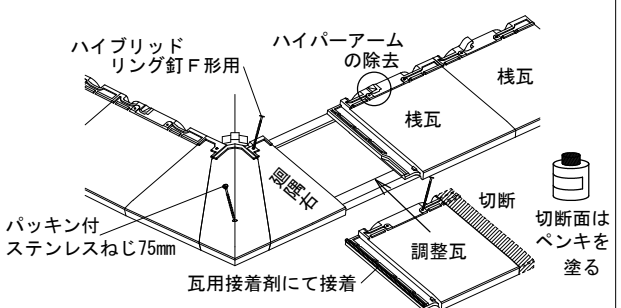
B寸法：102mm以下の場合



B寸法：102mmを超え204mm以下の場合



B寸法：204mmを超え306mm以下の場合



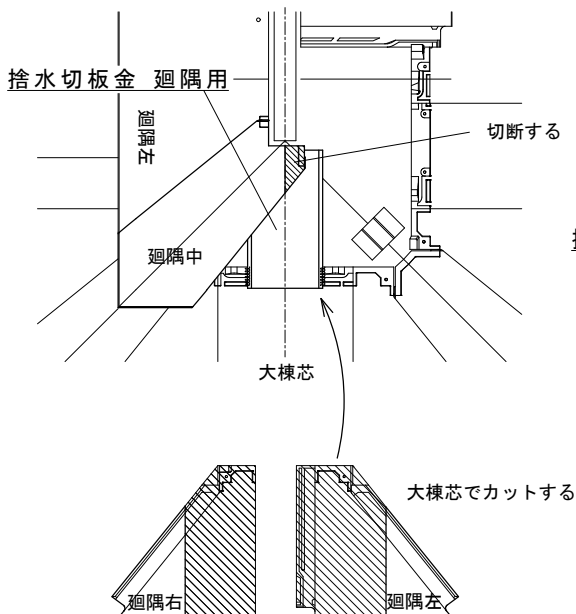
<瓦葺き：棟際>

三角面の最上段では、廻隅左と廻隅右を棟芯で切り合わせて施工します。

棟際で廻隅左～廻隅右間が153mm未満となる場合は、棧瓦をカットして納めてください。

カットによって瓦のアンダーラップがなくなる箇所には捨水切板金を入れてください。

【三角面の最上段】



【棟際：調整瓦で調整できないパターン】

